【号外】命のカルテと医療的ケア者の女性の雇用について、Yahoo！ニュースに掲載されました!

ラベル

> Shall we work? みんなの社会参加実現へ。PART 2：多様な就労と対応する雇用の今。
> https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/114e345b4fa2bb6dc79c6b2feaef19ae860c626a

命のカルテと医療的ケア者の女性の雇用について、記事にしていただきました!

記事内の④からがその内容になりますので、上記リンク先に飛んでみてください!

【高槻市】一般社団法人 予防団の方々が主催の防災イベントに参加しました!

先日、大阪府高槻市の安満遺跡公園で行われた、一般社団法人予防団の方々が主催されている防災イベントに参加いたしました!

イベントの内容に関してお伝えする前に、まずは一般社団法人予防団のご紹介をさせてください!

一般社団法人 予防団は、現役の消防士と消防設備士が設立した団体で、地域防災力の向上や公務員の副業や活動を推進する「パラレルキャリア」の実現などに向けて活動されている団体です。

今後、防災知識の体験イベントや地域連携を得意とする予防団と、医療的ケア児・要配慮者を含む共助ネットワークを推進する弊社が力を合わせることで、防災教育と共助活動が一体化され、より防災・減災体制を整えられると思っています!

災害関連死ゼロの実現に向けて、予防団の方々と力を合わせてまいります!

私達は企業の方でも、個人の方でも活動の幅を今まで以上に良い形で広げるお手伝いをさせていただければと思っておりますので、一緒に力を合わせ、みんなで支え合う輪を広げていきましょう!

そんな予防団の方々が主催するイベントでは、子ども向けにロープワークの体験やアウトドアロープを使ってのハンドストラップ作りなど

が行われていました!

また、予防団のブースでは、防災ゲーム「ボーケン」、自動火災報知設備の発信機押下体験、住宅用火災警報器点検方法体験、住宅用消火器展示、消火器使用方法レクチャー等が実施されていました。高校生防災士の方もボランティアとして参加されており、活気に溢れていました!

□□□

□「被災地では行政職員もまた“被災者”であり、助けを求める側になる」
という前提を、私たち国民全員が共有していかなければなりません。

□災害に遭わなかった人こそが、“助ける側”として平時から準備を進め、知識やスキルを活かして支援の輪を広げていくことが、これからの地域防災には欠かせないと強く感じました。

社会課題解決支援協会からも以下のような実践的な取り組みをお伝えしました：

命のカルテ（**mite**システム）
□①医療・生活に関する情報をあらかじめ登録し、災害時に安全・迅速に支援を受けられる仕組み
□②要支援者の安否確認や必要物資の管理にも活用

ミシカル（防災学習・登録プラットフォーム）
□①誰でも防災知識を身に付けられる
□②「助け愛メンバー」として登録すれば、地域との関わりを深め、「頼られる人に」

「平時にスキルを身に着け、災害時に命を守る人になる」
というコンセプトのもと、地域・個人の防災力を高めていくプロジェクトです。

“おたがいさま”でつながる地域
□今回の話し合いで印象的だったのは、「助けられる人になるだけでなく、助ける人にもなろう」
という、地域の皆様の前向きな姿勢です。

□「命を1つでも多く守りたい」という想いを共有する団体・個人が連携し、
それぞれの立場からできることを持ち寄る――。

□まさに、“おたがいさま”の精神が形になっていく場を感じることができました。

今後の展望
□社会課題解決支援協会としては、今後もE-wa！！山科との連携を深め、
「災害関連死ゼロ」という共通の目標に向かって、実践と連携を重ねてまいります。

□同じ志を持たれる方、これから学びたいと考えている方も、ぜひ私たちとつながってください。
□今すぐにすべてができなくても、「知ること」「学ぶこと」「つながること」から始められます。
□
□誰かの“もしも”を支えられる自分になるために、平時から一歩ずつ備えていきましょう！

事前防災を学ぶ
講師、一般社団法人　社会課題解決支援協会　近藤森規　代表理事
主催NPO法人　山科未来地図　E-wa!! 山科

□□□□

地域の防災は、福祉会や防災委員会が中心に

箕面市では、各校区に福祉会や防災委員会があり、地域ぐるみで防災活動が行われています。赤十字奉仕団の皆さんも、防災委員会に加わり、避難所の運営などに関わっておられます。

ただ、防災委員会としても、まずは避難所をしっかり回すだけで精一杯。そこに「医療的なケアが必要な方の受け入れ」まで対応を広げるのは、今の体制ではなかなか難しいというのが正直なところのようです。

情報の壁：知っているようで知らない「誰がどこにいるのか」

災害時の支援においては、障がいのある方や医療的ケア児の情報を把握しておくことが重要ですが、現在その情報は各学校に保管されており、前までは民生委員との共有も行われていたそうですが、現在は同意を得られた当事者の情報しかアクセスできない状況になってしまっています。

それでも、「できることから少しずつ」

そんな中でも、奉仕団の皆さんからはこんな前向きなお言葉をいただきました。

> 「命を1つでも助けられる形であれば、ぜひ協力したい」
> 「まずは勉強会やイベントを通じて、地域の認識を少しずつ揃えていきたい」

災害が少ないからこそ、備えの優先度が低くなってしまいがちな地域で、こうして声を上げてくださる方がいることは、とても心強く感じました。

小さな一歩が、地域を守る力になる

「ミシカル」では、医療的ケアが必要な方の情報を安心・安全に共有できる仕組みや、支援の担い手となる人材（共助士）を地域に増やす取り組みを進めています。

箕面市のような受け入れ先となる可能性がある地域でも、「自分たちには何ができるのか？」を一緒に考えていけたらと思っています。

みんなの命を、みんなで守る。
そのための一歩を、これからも地域の皆さんと歩んでいきたいです。

□□□□

そんな場面に、何度も出会ってきました。

私たちの協会が運営する社課プラットフォームに参加していただくと、こうした制度的ハードルを一緒に乗り越えていくことができます。

□□□

□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□…

- 社会活動を止めない制度相談窓口ができます
- 他の先進事例とのつながりが持てます
- 提案制度の情報や書き方なども共有され、制度活用がスムーズに!

□ ご相談・ご参加はこちらから

「制度の壁を越えて、一歩前へ」

ぜひ、社課プラットフォームを活用してみませんか?

お問い合わせはこちら

本当に命を救うための「個別避難計画」とは

本当に命を救うための「個別避難計画」とは

個別避難計画とは、高齢者や障がいのある人等の自ら避難することが困難な避難行動要支援者 ごとに作成する避難支援のための計画です。市町村が、地域の自治会（自主防災組織）や民生委員・児童委員、医療・保健・福祉の専門職 等の関係者と協力して作成することとされていますが、高齢者や障がいのある人々への個別避難計画を作ることは、困難を極めています。

個別避難計画の内容

個別避難計画を作るには、避難にあたり、

・どこに要支援者がいるのか

・避難にどの様な支障があり

・そどういった支援が必要か

・誰が支援を行うのか

・避難経路

・避難所の場所

・避難方法

・必要な薬材などの携行

・その際に留意事項の徹底

これらの情報を、以下のように管理運営する必要があります。

・どう管理するかの管理方法

・障がい者や高齢者の状態によって、常に情報が最新であるか

・災害時にすぐに情報を持ち出せる状態であるか

・誰がどのようにして情報を確認するのか

・避難支援者ごとに情報が割り振られるのか

「個別避難計画」ができた背景

□□□

命のカルテと個別避難計画を結ぶ

Screenshot

私たち一般社団法人社会課題解決支援協会では、

レスキューノートシステムmite～命のカルテ～に情報を入れることで、

国のクラウド型被災者支援システムに情報が届く仕組みになっています。

また、サポート体制を充実化し、

個別避難計画の作成もサポート。いざ災害が起きた時に、

自治体も、避難所も、避難される方も円滑に支援ができるように一緒に作り上げることが可能です。

レスキューノートシステムmite～命のカルテ～を自治体に導入することで、

一人でも多くの方を助け、災害に備えることができます。ぜひ導入ください。